

## 風土記の鉄の村

辻 憲男（文学部教授）

宮崎駿のアニメーション『もののけ姫』に、中世の“たたら場”が出てくる。軍兵の旗印が毛利氏の「一文字三つ星」なので、舞台は中国山地と知れる。もっともあのような大規模な製鉄は史実ではない。もっと小さな炉である。播磨の山間、宍粟（しろう）や佐用も、良質の砂鉄の産地であった。

千種（ちくさ）は『播磨国風土記』に「敷草の村」とあり、鉄を産し、ヒノキ・杉・栗が生い、オオカミや熊が住んでいた。伝説によると、巨人の大神がここで飯を炊いたので、今もミ（箕）やコシキヤカマドのような形の岡がある。稲をついた稲ツキの峰、そのヌカが飛んで落ちたヌカ崎、飯を食べたスカの里もある。飯などを水で飲み込むことを、古語でスクといった。大神はスカの姫神に求婚したが、固辞されたので、怒って川原に石を投げ入れ流れをせき止めてしまった。いま林田川の水量が少ないのはそのためである。国作りの大神の本拠は播磨一ノ宮の伊和神社である。

1976年に奈良県明日香村の大官大寺（だいかんだいじ）跡から、一枚の木簡が見つかった。長さ15.5センチ、幅3.4センチ、厚さ4ミリの荷札である。表面に「讃用郡駅里鉄一連」とあり、佐用の鉄が藤原京まで運ばれたことがわかった。藤原京は694～710年の都。風土記の鉄の記録と小さな木片とは、じつに千三百年ぶりに旧知と再会したというわけである。



鐵冶の神は岩野辺に降臨した。兵庫県宍粟市千種。  
佐用の駅里（うまやのさと）は『延喜式』の中川駅か。